屋久島農業の将来を担う４名を迎え「新規就農者励ましの会」を開催

7月4日に，安房公民館で，日頃から青年農業者育成に御尽力頂いている指導農業士や女性農業経営士をはじめ，青年農業者，関係機関約２５名が出席し，「新規就農者励ましの会」を開催しました。本年度は，日高正貴さん，市橋大輔さん，大山貴史さん，亀澤徳美さんの４名が就農されました。

今後の抱負として，日高正貴（３３歳，原）さんは，果樹園の耕作放棄地再生に取り組んでおり，「経営が成り立つような取組に発展させたい。」，市橋大輔（３２歳，麦生）さんは，果樹とその加工品販売をしており，「生産を勉強しながら，営業部長となり，おいしいものを届けたい。」，大山貴史（２９歳，麦生）さんは，果樹生産に加え「ネット販売，ガジュツ，エンドウも取り組んでいきたい。」，亀澤徳美（２６歳，尾之間）さんは，「栽培管理担当の兄に早く追いつき，自立できるよう頑張りたい。」など語られました。

４名の皆さんが，地域農業の担い手として活躍されるよう，農業普及係では，関係機関・団体と協力しながら技術・経営等の支援を行います。　（担当：重）

亀澤さん　日高さん　市橋さん　大山さん

鳥獣害の被害防止は集落で取り組もう！

1 屋久島における鳥獣被害の現況について

平成２３年度の農業での鳥獣による被害額が７，０００万円を超えました。

主なものがシカ，サルの被害で，農家の方々も対策に苦慮されていることと思います。特に，シカについては毎年猟友会の皆さんのかなりの捕獲にもかかわらず，増え続けている状況です。

県も，平成２４年度から５年間，特定鳥獣（ヤクシカ）保護管理計画を策定し，屋久島の農業及び動植物の生態系保護のため，強力な捕獲を中心とした個体数の管理に本格的に取り組むこととしています。これにより，シカによる農業被害の減少に期待が持てるのではないでしょうか。

【平成23年度　捕獲数】

シカ	２１６４頭
サル	９１２頭
タヌキ	１９８頭
カラス	１８６羽
ヒヨドリ	３１６羽

シカによる農業被害

シカの行動・特性

●昼夜を問わず行動する。
昼は主に森林の中にいて，**夜間に人影がなくなると開放的なところに出没**する。

●5～6月に1頭出産。

●エサが豊富な場合は，毎年出産。

●高さ150cm程度は飛べるが，**ほとんど飛ばない。**
柵の隙間，やぶれ，接地面からくぐって侵入する傾向がある。

●植物はほとんど食べるが，
やわらかい新芽が大好き。

●寿命はオス10～13才，
メス12～15才。

2　被害防止のポイント

シカの行動・特性を知り，被害防止を集落みんなで取り組みましょう。

① 放任果実は除去する
② 畑に残渣は残さない
③ 情報はみんなで共有
④ 守りたい農地は，柵を張る
⑤ 集落みんなで鳥獣駆除

（担当：岩川鳥獣被害防止対策集落指導員）

ばれいしょの種いもは「合格証票」付きの使用を！
（ジャガイモシストセンチュウの侵入を防ぐために）

1 ジャガイモシストセンチュウとは

ジャガイモシストセンチュウは，ばれいしょの最重要害虫です。このセンチュウが寄生すると生育・収量が低下します。また，このセンチュウは，卵を低温や乾燥から守るシストという形で10～20年生存するため，一度発生すると根絶は困難です。

2 侵入状況と対策

日本では，北海道で初めて確認された後，長崎県，青森県，三重県と拡大し，昨年，熊本県でも発生が確認されたことから，鹿児島県としては侵入防止を徹底する必要があります。

侵入経路としては，種いもや発生地の土壌での移動等が考えられます。そのため，日本におけるばれいしょの種いも生産は，指定産地で行い，植物防疫官が検査し，病害虫がいないことを確認したものに，「合格証票」を添付して供給する制度となっています。

被害ほ場

根の寄生状況（シスト）

3 最後に

ジャガイモシストセンチュウが侵入しても，青果用ばれいしょの栽培は可能ですが，栽培上・植物検疫上大きな問題となります（図３）。また，現実的な侵入対策は，「合格証票」付きの種いもを使用することしかありません。青果用いもは絶対に種いもに使用しないようにしてください。

栽培上の問題

・一度侵入すると，**根絶はほぼ不可能**
・**収量・品質が著しく低下**
・なす科野菜へも被害が発生

↓

・農家の**収益性の低下**
・**産地イメージの低下・危機**

植物検疫上の問題

・外国からの**土付き生いも輸入は原則禁止**（シストセンチュウ侵入防止のため）

・日本での発生が拡大すると，**生いも輸入が解禁・・・**
・加工用を中心に**外国産の輸入拡大・・・**

↓

・国内のばれいしょ**産地の危機**

図３ ｼﾞｬｶﾞｲﾓｼｽﾄｾﾝﾁｭｳ侵入による問題

図４ 合格証（見本）

（担当：柳川）

発育を良くする子牛の育成管理技術

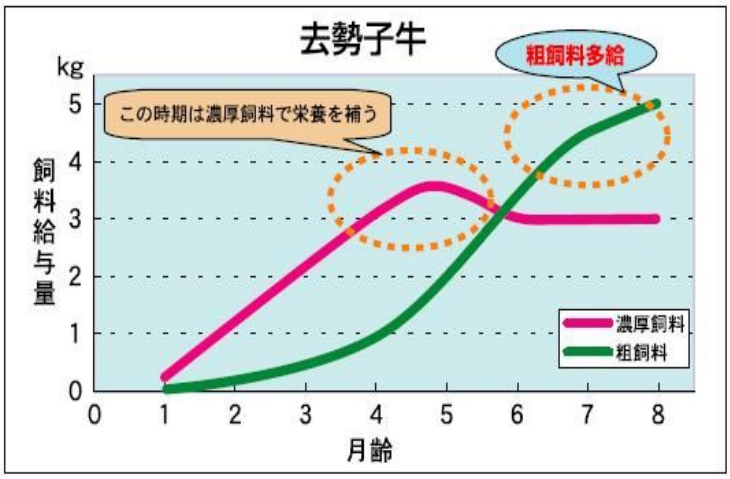
屋久島産子牛は，母牛群の整備改良や優良種雄牛との交配等により，市場平均を上回る価格で販売されています。その一方で、日齢体重（子牛の発育）の市場平均比は２２年以降，１０６%→１０３%→１０２%と相対的に低下してきており，また出荷体重も２７４ｋｇ→２６４ｋｇ→２５８ｋｇと小さくなってきています。

屋久島産子牛の商品性を今後さらに高めていくためには，子牛の発育改善が課題です。

子牛育成時の飼料給与については，県肉用牛振興協議会で給与マニュアルが作成され，地域でもそれを基にした給与体系が推進されています。

良好な発育を得るためには，５ヶ月齢まで（粗飼料で必要養分量をまかなえない時期）は濃厚飼料で栄養を補い，６ヶ月齢以降（粗飼料で必要養分量をまかなえる時期）は粗飼料多給で栄養を補うのがポイントです。

濃厚飼料と粗飼料の給与パターン



良好な発育を得るためには

離乳から5ヶ月まで
（粗飼料で必要養分量を充足できない時期）
↓
濃厚飼料で栄養を補う

6ヶ月齢以降
（粗飼料で必要養分量を充足できる時期）
↓
粗飼料多給で栄養を補う

また，離乳までのほ育期の管理も重要です。子牛だけが出入り，採食できる場所（別飼い施設）を設け，常に清潔にし，子牛が好んで入るよう工夫します。

飼料は，餌付け用の濃厚飼料，良質な乾草（３ｃｍ程度に細断）を自由に採食できるようにします。栄養価の高い新鮮なものを給与し，下痢の原因になるような変敗した飼料は，絶対にやらないようにします。

固形飼料を摂取するようになると飲水量も増えますが，水が十分に飲めないと採食量も落ちますので，常時清潔な水が飲めるようにしておきます。

最短の離乳の目安は，餌付け飼料の採食量が１ｋｇ，体重が７０ｋｇ程度になった頃です。母牛の受胎促進を図るためにも，２～３ヶ月齢程度での離乳を実施しましょう。

離乳後の餌付け用飼料から育成用飼料への切替は，２～３週間かけて徐々に行います。

離乳後の子牛を群で管理する場合，群内の発育の格差を縮める方法として，性別，月齢(発育)別の群構成や子牛用連動スタンチョンの利用も有効です。日光浴や適度な運動などの飼養環境にも気を配りましょう。

（担当：諸木）

「集落営農」はむずかしくない！！
集落のこと，農業のこと，みんなで話し合ってみませんか？

「集落営農」と聞くと，「農家のこと」，「農業機械の共同利用」または「農作業の受託」といった考え方がありませんか？
「集落営農」とは「女性や高齢者，担い手など集落のみんなが安心して集落で暮らしていくために，これからの農業を考え，みんなで取り組んでいくこと」です。
「集落営農」を考えていくために，まずはみんなが公民館に集まって，集落のこと，農業のこと，ちょっと話し合ってみませんか。
今回は，屋久島での集落営農の取り組みについて紹介します。

湯泊集落～集落の中での話し合いからスタート～

湯泊集落は高齢化率50％で島内で一番，高齢化が進んだ集落です。湯泊をどうにかしなければと，平成２３年６月に湯泊地区集落営農「いけんかすっ会」を15名で結成しました。
昨年度は，話し合い活動の一環で，ブレーンストーミングという手法を用いて，現状と課題を整理し，「地域営農活性化ビジョン」と年次毎の活動計画を作成しました。

定例会で，ビジョン実現に向け熱心に討論

湯泊集落の将来について検討中

昨年に引き続き今年度も毎月１回定例会を開催しています。今年度はまず畑総の有効利用を進めようと，みんなで焼酎用さつまいもの植え付け作業を行いました。ビジョンの実現に向けて，みんなで話し合い，一歩一歩前進しています。

農林普及課では，関係機関・団体と連携して，今年度は６月に集落営農リーダー研修会を開催しました。南九州市川辺町の農事組合法人どんどんファーム古殿の水溜一紀事務局長から「みんなで取り組む集落営農」と題して，集落営農に取り組んだきっかけやオペレータ，高齢者，女性グループの活動，活動継続の秘訣などを，ユーモアを交えて紹介いただきました。
「集落営農を地域でも考えたい」「うちの集落でも実現できそう」等の意見もありました。

『古殿での　集落営農継続の“秘訣”』

- ●リーダーの提案に応える地域の気質があったこと，そしてやってみたこと
- ●飲ミュニケーション（飲ん方）を大事にしていること
- ●生きがい農業をとりあげず，できることはしてもらうこと
- ●個人で農機具を買わないこと
- ●ボランティアをしない
- ●嫌なことはしない，楽しくやろう！

農林普及課では，今後も話し合い活動をすすめ，屋久島での集落営農の取り組みを支援していきますので気軽にご相談ください。

（担当：船迫）

9月～10月は農作業事故ゼロ運動推進月間です！

県内では年間平均16件の農作業死亡事故が発生しており，秋は農作業事故が発生しやすい時期です。
いつものほ場・使い慣れた機械・慣れた作業・作業が遅れている・・・　ちょっとした油断，気のあせりが事故につながることがあります。十分注意しましょう。

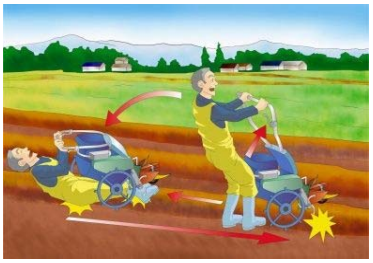
こんな事例に注意

事例1　耕耘機

下り坂や高速走行時に，急停止や急旋回すると後のトレーラから押され，横転事故等の原因になります。スピードの出し過ぎに注意！

事例2　管理機

耕耘作業中に硬い耕盤や石の所では，ハンドルが浮き上がることがあります。手でハンドルを押さえつけるだけでなく，クラッチを切り事故を防ぎましょう。



事例3　チェーンソー

エンジン回転が低いままで木を切ろうとすると，チェーンソーが前方に引き込まれることがあります。安定した姿勢でチェーンソーをしっかり保持し，適正回転数で作業しましょう。

（担当：柳川）

ティーブレイク　～ちょっとひと休み～

屋久島茶を使った冷たいおやつ作ってみませんか？

＜材料　８個分＞
パンナコッタ
粉茶　大さじ2
牛乳　３００ｃｃ
生クリーム　２００ｃｃ　鍋
グラニュー糖　５０ｇ
水　８０cc
粉ゼラチン　２０ｇ
カラメルソース　又は黒蜜
砂糖　大さじ3　黒糖　３０ｇ
水　大さじ1 1/2　水　１５ｇ

〔パンナコッタ〕
①水に粉ゼラチンをふり入れ，ふやかしておく。
②牛乳・生クリーム・グラニュー糖を鍋にいれて沸騰しないように煮溶かす。
③粉茶と①を入れ余熱で溶かす。
④器に流し，粗熱をとってから冷蔵庫で冷やす。
〔カラメルソース〕
⑤小鍋に砂糖を入れ火にかけ鍋をふる。泡と煙を見てからさし湯（又はさし水）する。
⑥④にカラメルソース又は黒蜜をかけてできあがり

平成23年屋久島食の文化祭で紹介したレシピです。　（担当：船迫）